【学力向上フロンティアスクール中間報告書】

都道府県名	山形県

Ⅰ　学校の概要

学校名	新庄市立日新中学校					
学　年	１　年	２　年	３　年	特殊学級	計	教員数
学級数	４	４	４	０	１２	２３
生徒数	１３０	１３８	１３８	０	４０６	

Ⅱ　研究の概要

１．研究主題

評価の観点に示す能力を育成する学習指導
－　必修教科の補充・発展を図る選択教科の指導のあり方　－

２．研究内容と方法

(1) 実施学年・教科

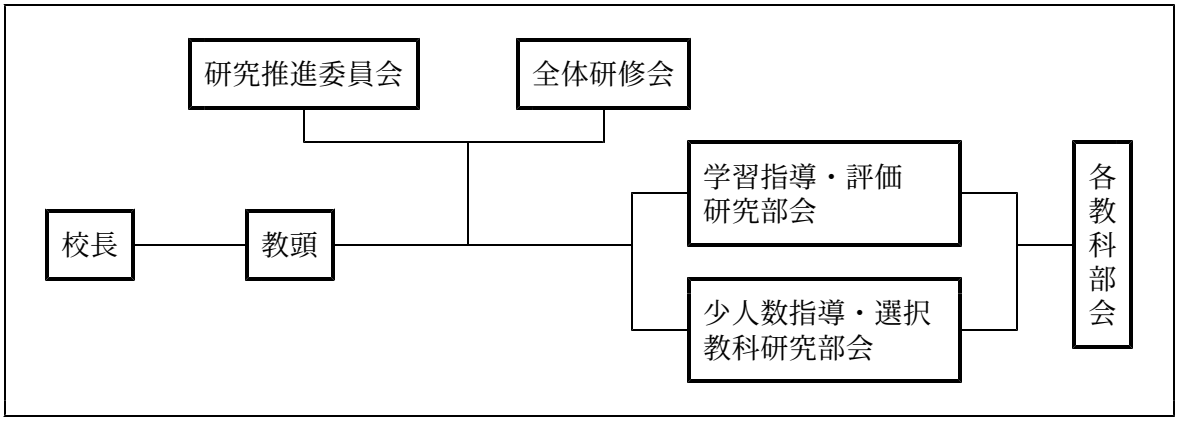
２学年必修教科数学、英語
２学年選択教科数学、英語
英語、数学は、生徒の習熟度に差が出やすいので、必修教科、選択教科両面で指導の工夫をおこなうことにより、学習意欲と学習効果を向上させることを研究する。
また、研究の成果を測定・考察するため、同一学年を２年間継続して指導する。平成１５年度は２学年、１６年度は３学年の数学、英語で実施となる。

(2) 年次ごとの計画

平成15年度	○ テーマ　　評価の観点に示す能力を育成する学習指導 ○ 研究の見通し（仮説） 学力を評価の観点に示す能力ととらえ、教科指導を通して「生きる力」を育むために必修教科の指導を充実させるとともに、特に必修教科の補充・発展を図るための選択教科の指導のあり方を研究する。 ○ 研究の内容・方法 （1）必修教科の指導の充実 ① 評価の観点に示す能力を育成する学習指導 ・単元別評価観点構成表（学習指導計画）と評価基準表の作成・活用 ・単位時間に一観点を焦点化した授業の実践 ・各観点に示す能力を育てる教材や学習活動の工夫 ・それぞれの観点の評価に必須の学習活動、ABC ラインの決め方等、評価基礎資料の積み上げから観点別絶対評価への整理集約のあり方 ② 個に応じた指導の工夫 ・２年数学と英語における少人数指導及びＴＴ指導の実践とその工夫 （2）選択教科の指導の工夫 ① 必修教科との関連性を重視した選択教科の年間指導計画の作成 ② 生徒の希望や習熟度を配慮し、選択幅を拡大したコース設定と指導体制の整備 ・英語、数学における基礎コースと発展コースの設定 ③　必修教科の補充・発展を図る選択教科の指導内容（２年英語、数学を中心に）及び教材の工夫 ④　選択教科選定のためのガイダンス機能の充実

平成16年度	○ テーマ、研究の見通し（仮説）を平成１５年度と同様に設定し、研究内容をより一層推進する。 ○ 研究の内容・方法 （1）必修教科の指導の充実 ① 評価の観点に示す能力を育成する学習指導 ・単元別評価観点構成表（学習指導計画）と評価基準表の見直し、活用 ・学力の定着を図るための、単位時間に一観点を焦点化した学習過程の工夫 ・各観点に示す能力を育てる教材や学習活動の工夫 ・評価基礎資料の積み上げから観点別絶対評価への具体的な方法の改善 ② 個に応じた指導のさらなる工夫 （2）選択教科指導の工夫 ① 必修教科との関連性を重視した選択教科の年間指導計画の見直し ② 生徒の希望、習熟度を配慮したコース設定及び指導体制の改善 ③ 必修教科の補充・発展を図る選択教科の指導内容（３年英語、数学を中心に）及び教材の工夫 ④ 選択教科決定のためのガイダンス機能の工夫 ⑤ 選択教科の評価のあり方の研究

(3) 研究推進体制



Ⅲ　平成１５年度の研究の成果及び今後の課題

１．研究の成果

（1）必修教科の指導の充実

①　単元別評価観点構成表の作成により、単元における指導と評価活動が明確になり、それに基づいて単位時間に一観点を焦点化した学習指導を積み重ねができるようになった。

②　数学・英語において少人数指導、ＴＴ指導の工夫をすることで、個別に支援する機会が増えるとともに、学習内容や教材によって多様な学習形態が可能になり、基礎・基本の定着や興味関心を高めるのに効果が出始めている。

〇少人数指導の工夫・改善として、２年英語では１学級を出席番号をもとにして２クラスに分け、２名の教師で指導した。１学期は各 Lesson の指導をこの少人数クラスで行い、語句や文型、教科書本文の音読など基本的事項の理解と定着を図った。２学期は少人数クラスで書くことや話すことによる表現活動に重点を置いた学習を Let's Talk と Let's Write の単元で行った。

〇２年数学においては、教科担任＋４名の教師で４学級のＴＴ指導を行っている。主に机間指導や問題演習を中心に個別に支援しており、単元によっては小グループ別に指導したり、プリント学習で個別化を図っている。（添削指導も含む）
また、確かな学力を身に付けさせるための問題演習を通して、基礎・基本の習得を重点に指導している。今後は、内容によって１学級を２学級に分けての少人数指導も考えている。

（2）選択教科の指導の工夫

①　２学年５教科選択においては、国語、社会、理科、数学基礎、応用、英語基礎、応

用の７コースから１コースを選択し学習している。生徒は、前期より後期の方がより目的を明確にした選択ができ、学習への取り組みも良くなっている。

② 必修教科との学習内容や評価の観点等の関連をふまえて選択教科の年間指導計画を作成して活用するとともに、補充・発展のそれぞれのねらいを、次のように設定し指導している。

［補充］：必修教科に対する興味・関心を高めつつ、基礎・基本の確実な定着を図ることをねらいとする。

数学では、前後期それぞれ〔数と式〕〔数量関係〕分野と〔図形〕分野を中心に学習し、必修教科の観点である「関心・意欲・態度」「表現・処理」「知識・理解」を特に重点化している。基本的な問題演習に主として取り組み、確実な解法の理解と習得に努めた。

英語では、評価の４観点のうち、言語や文化についての「知識・理解」とコミュニケーションへの「関心・意欲・態度」に重点をおき、語句や文法といった基礎・基本の定着を図り、英語学習に対する興味・関心を高めることをねらいとした。

［発展］：必修教科に対する興味・関心をさらに高めつつ、応用力、表現力を身につけさせることをねらいとする。

数学では、必修教科の観点である「数学的な思考」「表現・処理」を特に重点化した。学習内容としては、応用発展的な課題にチャレンジすることを通じて、問題へ多様な視点からアプローチさせ、解法の習得に努めた。

英語では、評価の四観点のうちの「理解の能力」と「表現の能力」に重点をおき、長文の理解や英語での「話すこと・書くこと」による表現活動を行った。

③ 前期に数学、英語を選択した生徒の２学期中間までの必修教科における観点別絶対評価の比較（変容）は下表の通りである。

教　科	数　学（２７人）											
観　点	関心・意欲・態度			見方・考え方			表現・処理			知識・理解		
評　価	C	B	A	C	B	A	C	B	A	C	B	A
１学期中間	１	２１	５	４	18	５	３	10	14	２	14	５
２学期中間	１	１６	１０	５	16	６	１	11	15	１	10	16
教　科	英　語（３３人）											
観　点	関心・意欲・態度			表現の能力			理解の能力			知識・理解		
評　価	C	B	A	C	B	A	C	B	A	C	B	A
１学期中間	２	１６	１５	６	12	15	７	22	４	７	11	15
２学期中間	７	１６	１０	９	14	10	６	14	13	７	13	13

現段階での数値的資料は以上の通りであるが、今年度の研究の評価（数値的測定）を次のように行っていく予定である。。

ア 選択教科学習の必修教科学習への効果の検証

- 校内で行っている絶対評価と学力テスト（ＮＲＴ、ＣＲＴ）の結果の分析
- ２年生の選択数学、英語を履修した生徒について、数学、英語の向上度とその他の教科の向上度の比較検討
- ２年生の選択数学、英語を履修した生徒としなかった生徒の学年内における相対的比較及び向上度の比較検討
- 選択を履修した教科と履修しない教科の個人内の相対評価

イ アンケート調査により、生徒の情意面や保護者の意識の実態の把握

２．今後の課題

(1) 必修教科の指導の充実のために

① 各観点に示す能力育成のための学習活動、指導パターンや授業の組み立てをさらに工夫しなければならない。

② じっくり指導できるようにするため、単元における観点毎の評価のポイントを絞り込んでいくことが求められるようになってきた。

③ 少人数指導や TT 指導を行う上での学習集団づくり、より効果的な学習指導のための指導者側の打ち合わせを充実させていく。

④ 教員配置、並びに学習内容に応じた少人数指導、ＴＴ指導の形態のあり方をさらに工夫しなければならない。

⑤ 生きる力としての学力の評価について、さらに校内における研修が必要である。

(2) 選択教科の指導の充実のために

① 選択教科での必修教科の補充・発展のあり方、その学習活動をさらに工夫するために、必修教科との関連性を重視した選択教科の年間指導計画の見直しと改善を一層進めなければならない。

特に、必修教科の進度に対応した選択教科の指導時期の検討、及び必修教科の学習定着度を的確に把握した選択教科の指導内容の２点を吟味し、見直しを図る。

② 選択教科の指導における効果的な学習のための学習規律づくりと学習集団づくりを進めていくことも必要である。

③ 生徒の希望、習熟度等、実態を考慮したコース設定および指導体制を、さらに吟味、改善していく必要がある。

④ 必修教科との関わりで、選択教科の評価のあり方に、さらに検討を加えていく。

Ⅳ 学力等把握のための学校としての取組

- 日常の授業における焦点化された観点別絶対評価の積み上げ（整理・集約）
- 小テスト、単元テスト、定期テスト（年間４回）の実施
- 学力テストの実施（４月ＮＲＴ，２月ＣＲＴ）

Ⅴ フロンティアスクールとしての研究成果の普及

・平成１６年１１月　　公開研究発表会
・テーマ　評価の観点に示す能力を育成する学習指導
　　－必修教科の補充・発展を図る選択教科の指導のあり方－
・対象　　本校研究テーマに関心をお持ちの全国の小中学校教職員
・内容　　３学年の必修教科数学、英語の授業公開（少人数指導、ＴＴ指導）
　　３学年の選択教科数学、英語の授業公開
　　全体協議会

◇ 次の項目ごとに、該当する箇所をチェックすること。（複数チェック可）

【新規校・継続校】　☑ １５年度からの新規校　□ １４年度からの継続校

【学校規模】　□ ３学級以下　□ ４～６学級
□ ７～９学級　☑ １０～１２学級
□ １３～１５学級　□ １６学級以上

【指導体制】　☑ 少人数指導　☑ Ｔ．Ｔによる指導
☑ その他

【研究教科】　□ 国語　□ 社会　☑ 数学　□ 理科
☑ 外国語　□ 音楽　□ 美術　□ 技術・家庭
□ 保健体育　□ その他

【指導方法の工夫改善に関わる加配の有無】　☑ 有　□ 無